

## 編集後記

今冬の厳しさは記録的でした。ラニーニャ現象の影響とか、温暖化など最近の異常気象との関連もささやかれています。温暖化といえば、二酸化炭素を排出する化石燃料による発電は控える傾向になり、最近、原子力発電も見直されるようになってきました。核燃料廃棄物処理や安全性など課題はありますが、温暖化とどちらが大きな問題であるか、天秤をかけての判断でしょう。原子力発電も究極は核分裂ではなく環境や資源への心配が少ない核融合であることを学生のときに教わり、2000年には核融合炉が実用化されて置き換わると習いました(1970年代ですが)。しかしその道のりは遠かったようで、あと何十年か待たなければなりません。そのせいなのか、一般には、核融合だけでなくプラズマも何となく複雑で難しいものとの印象を深めるようになった気がします。日常的には、固体、液体、気体

は手に触れて実感することができますが、第4の状態ともいわれるプラズマとは何なのか、何がプラズマなのか、確かに専門外の人には説明は難しいように思われます。一方で、民生用機器にプラズマディスプレイやプラズマ・イオン空気清浄機が登場し、プラズマという言葉は日常用語にもなっています。また最近、平易な一般解説書も出版されており、プラズマを身近にわかりやすくする努力もなされています。科学技術に携わる人の中でもプラズマというと近寄りがたいとの先入観を持っているような感じを受けるときがありますが、もっと多くの人にプラズマを身近に感じてもらえるよう、いろいろな方面からの努力が必要でしょう。本誌も、プラズマや核融合の専門家だけでなくプラズマに関わる様々な分野の人が入り込み、多くの人に広く親しみやすい会誌にしていこうというのは筋違いでしょうか。(林 康明)

### プラズマ・核融合学会役員

会 長	高村 秀一	副 会 長	山中 龍彦 藤原 正巳	常務理事	岡村 昇一 (総務委員長)
理 事	今井 剛 奥野 健二 佐藤浩之助 畠山 力三 (企画委員長) 森 雅博		榎戸 武揚 (広報委員長) 尾崎 章 (財務委員長) 田中 和夫 (プログラム委員長) 堀岡 一彦 (広告委員長) 吉田 善章 (編集委員長) 藤山 寛		岡野 邦彦 (出版委員長) 際本 泰士 二宮 博正 松岡 啓介
監 事	長谷川 満				

### プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 吉田善章 (東大新領域)  
 エディター 関子秀樹(九大), 関 昌弘(原子力機構), 田中雅慶(核融合研), 西村博明(阪大), 福山 淳(京大), 藤山 寛(長崎大)  
 編集委員 荒巻光利(名大), 飯塚 哲(東北大), 岩尾 徹(武蔵工大), 岩切宏友(九大応力研), 岩前 敦(京大院工), 上田良夫(阪大院工), 江角直道(長野高専), 片沼伊佐夫(筑波大プラズマ), 門 信一郎(東大高温プラズマ), 菅野龍太郎(核融合研), 近藤公伯(阪大院工), 榎田 創(産総研), 重森啓介(阪大レーザー研), 篠原俊二郎(九大院総理工), 鈴木 哲(原子力機構), 妹尾和威(核融合研), 高杉恵一(日大量科研), 高橋栄一(産総研), 永岡賢一(核融合研), 服部邦彦(東北大院工), 林 康明(京都工繊大), 檜垣浩之(筑波大プラズマ), 増崎 貴(核融合研), 南 貴司(核融合研), 山内有三(北大院工), 山本 靖(京大エネ理工研), 山本 巧(原子力機構)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

### プラズマ・核融合学会誌第82巻第3号

編集・発行  
 〒464-0075 名古屋市中種区内山3丁目1-1 4階 印刷 株式会社荒川印刷  
 社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会 2006年(平成18年)3月25日  
 Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485  
 E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/> 定価1,365円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月、第1金曜日に開かれています。但し、第1金曜日が休日あるいは5日以降の場合はその前週の金曜日に開かれます。